

わがまち
リレー
ルポ

学園都市の風 下

今月上旬、野々市市本町3丁目の商業ビルに金沢工大生4人が集まった。来月の北國街道野々市の市(北國新聞社後援)で披露するプロジェクト「ジョン・マッピン」の下見である。学生と一緒にビルの2階から見下ろすと、文化財建築や高木が並ぶ本町通りが目に飛び込んできた。

「野々市でも歴史的な風情がある場所。おもしろい映像を考えたい」。課外活動グループ「DK アートカフェプロジェクト」のリーダーで情報フロンティア学部3年の村上太一さん(20)と北堀創羅さん(21)は意気込んだ。

「本町銀座」再現

北國街道野々市の市は2011年の市制移行を契機に市民有志が企画して始まり、今年で14回目。藩政期の参勤交代の宿場町だった通りの歴史に光を当て「本町銀座」と呼ばれたかつてのにぎわいを再現する。

プロジェクトは野々市の市の前夜祭となる22日に行う。21年にスタートし、デジタル技術を学ぶ工大生らしい企画として定着した。昨年は剣詩舞道や野々市じよんからの踊り流しに合わせ、幾何学模様や炎月夜の映像を投影し、歴史街道を幻想的に彩った。

村上さんと北堀さんがプロジェクトに参加したのは昨秋で、野々市の市に参加するのは今回が初めてとなる。先輩の姿を見て、映像で人を楽しませるおもしろ

歴 史空間に映像アート

北國街道盛り上げ隊

ろきに引かれた。2人は4月に志賀町で開かれた能登半島地震からの復興コンサートに映像演出で参加。5月に金沢駅の鼓門に映像を投影するなどして経験を積んできた。新たに導入した専用ソフトを駆使した映像を考えており、

継続の原動力

野々市の市では金沢工大生は欠かせない存在になっ

発想力、裏方でも貢献



昨年披露された映像アート
＝野々市内



ている。当初は会場となる旧北國街道周辺の住民を中心に運営してきた。規模や来場者が年々増えるなかで、実行委メンバーが金沢工大に協力を要請。キャンパスから近いこともあり、教官や学生が加わるようになった。DKアートカフェを含めて約20人が設営や片付けなど運営スタッフとして関わる。

実行委員長の樫田彰久さん(75)は、金沢工大生の映像アートなど新しい取り組みを取り入れてきたことが「継続の原動力」になってきたと振り返る。今年には中世に加賀の守護を務めた富樫氏を発信する「富樫プロジェクト」の一環で歴史イベントが行われる。北國街道の宿場があった小松市、滋賀県彦根市の(当地キャラクター)も登場する予定だ。

樫田さんは野々市の歴史を体感するイベントに関わるのは学生にとって貴重な経験になるとし「野々市を第二のふるさとと思うくらいに好きになってほしい」と期待する。

本番まで約1カ月。野々市の歴史街道を舞台に、市民と学生が連携してどんなイベントが繰り広げられるのかワクワクする。

(野々市支局・水上良)

映像アートの会場となる本町通りを見下ろす学生
＝野々市市本町3丁目